令和８年２月 19 日

学校だより

射水市立作道小学校

２４７号

今年度も残りあと１カ月！

＜３年生の雪遊び＞

２月も半ばを過ぎ、今年度も残すところ１カ月となりました。来月 17 日に控える卒業式に向け、子供たちは６年生とのお別れを惜しみながら、歌やよびかけの練習をしています。６年生の中には、早く中学生になりたいと希望に胸を膨らませている児童もいれば、まだまだ小学生のままでいたいと思っている児童もいるようです。残りの小学校生活の一瞬一瞬を、友達や後輩、先生方とのつながりに感謝し、一日一日を大切に過ごしてほしいと願っています。

まだまだ寒い日々が続きますが、全校児童が健康で安心安全な学校生活が送れますよう、引き続き、本校教育活動へのご理解とご協力をお願いいたします。

非認知能力の重要性（長期的な人生の成功やウェルビーイングに深く関わる）

さて、お子様は・・・・・・・・・
相手の気持ちを考えることはできますか。
失敗しても立ち直ることができますか。
難しい課題でもあきらめずに続けることができますか。
習い事を長く続けられますか。
ゲームをやめて宿題を優先できますか。
感情的にならず冷静に話せますか。
新しいことに挑戦する好奇心はありますか。

近年、教育現場や子育てにおいて「非認知能力」という言葉を耳にする機会が増えました。学校のテストやＩＱ検査等で数値化されやすい能力が「認知能力」、これに対し、人間の内面的な意欲や態度、感情、コミュニケーション力等の心の力で、数値化が難しい能力が「非認知能力」です。どちらの能力も大切であり、車の両輪のように互いに影響を及ぼしながら成長していくものですが、「認知能力の土台に非認知能力がある」という視点が重要です。

非認知能力は、**生まれつき備わった「才能」ではなく「育つ力」**といわれ、与えられた環境や日々の経験の中で育まれます。子供たちの自発的な挑戦を讃え、失敗を学びの機会として肯定的に捉える声かけをしたり、自律性を育む自己選択の場や意図的に協調性や共感性を養う機会を設けたりするなど、学校や家庭の中で非認知能力を育てる環境を整える必要があります。変化が激しく予測不可能な時代を生きる子供たちに「生きる力」「社会で活躍するための土台となる力」を身に付けることが、今後大切になっていきます。

校内なわとび大会　２月 19 日

本校では冬の体力向上のため、全校児童がなわとびを行っています。２月 19 日には、校内なわとび大会を実施しました。一人２種目の跳び方を選んで、目標に向かってチャレンジしました。なわとび大会の前には、縦割り班で練習し、励まし合ったり、上級生が下級生に跳ぶコツを教えたりする姿が見られました。大会当日、子供たちは、体育の時間やチャレンジタイムで練習を重ねた成果を発揮して頑張っていました。

＜5、6年　冬の野外活動＞　１月 29 日

５、６年生は、「冬の野外活動」で、国立立山青少年自然の家に行ってきました。まず初めに橇（かんじき）の体験をしました。橇は昔の人が知恵を絞って作った道具です。子供たちは履き方が分からず、履くことに苦労しましたが、その効果を確かめながら森の中を一歩ずつ歩んでいました。その後は学年ごとに別れ、雪上なわとびやドッジボール、雪像づくりを楽しみ、連帯感を高めていました。

＜1 年　昔の遊び交流会＞　１月 20 日

１年生は、生活科の学習で地域の老人クラブの方々と昔の遊びを通して交流しました。コマやけん玉、めんこ、お手玉等を一緒にして遊んでもらったり、コツを教えてもらったりしました。

第 66 回富山県小中高校生書初大会　２月 11 日審査

推薦　大塚万尋　（２年）　海老彩乃（５年）　**特選**　伊藤七海（１年）
明石幸ノ助（３年）　前田莉杏（６年）　舘　佑奈（５年）
有澤叶翔　（４年）　野口莉愛（６年）

県内推薦受賞作品は２月 21 日～22 日に 富山市民プラザ で展示されます。